

またこの近くには大久地城(小口城)主織田与次郎信康、(第七代城主か)の旧宅があったとも伝えられ、ここには供養のため石碑が建てられている。

この城跡については、地元でもこれに係る中嶋左兵衛尉城跡 言い伝えもなく、その沿革を示す資料もないが、天保年間に作成された村絵図(徳川

林政史研究所所蔵)にその存在がしるされている。

この村絵図でその場所を見るに、現在の町役場東側の五条川沿いの一角にあたる処に「中嶋左兵衛尉城跡」と

しるされ、その南側には「丸ノ内」、北側には「丸裏」と地名が書かれ、丁度この地は現在の小字名「丸」にあたる地であり、昔この辺りには土塁を思わせる地形があったといわれ、城の規模は明らかでないが、五条川を堀に利用し、四方、五〇メートルほどでなかつたかと考えられる。一方中嶋氏は、往古(約四〇〇年位前)この地域にかなりの勢力をもつ、豊臣の家臣であったことは菩提寺である、一宮市の妙興寺所蔵の史料で明らかである。

また中嶋氏については、当町余野神社宝物「青銅鐙口」の寄進(慶長二年・西暦一五九七)からもこの地とは、格別深い関係にあったと考えられる。



図4-36 織田遠江守広近の墓碑(中小口妙徳寺)

第二項 寺社に関する遺跡

長樂寺

豊田字長樂寺地内に在り、今は耕地でその跡を見ることはできないが、この寺は尾張の地では非常に古い寺院であつたと伝えられる。

永祿年間に織田一族の戦いの折、兵火により焼失したと伝えられている。その後本寺の和尚桂林が寺を建立し寺号を桂林寺とし、今日に至つていふという。

現在の桂林寺の鐘は、長樂寺のもので「長樂寺」の銘が刻まれている。

定光寺

中小口地内北の方に定光寺という地名がある。この地に定光寺があつたといわれ、千年以前のもので一説には真言宗であり、また部落に伝わる話にこの寺は、天文年間(一五三二―一五五四)この地にあつたもの「水野の定光寺」へ(現在の東春日井郡品野町)移転したという。

しかしこれについては、定光寺の開源年代と合致せずその建造物の一部を移築したぐらいのことでないかと推定される。

その他に

寺院址といわれるところがつぎのようにあるが、これらを証拠付ける資料、址などはつきりするものが少ない。

表4-5

地区名	古址名称	字名	事柄
秋田地内	報徳寺跡	報徳寺	<p>現在は耕地となり、その痕跡がない。</p> <p>元文三年村人が村内安全を祈り鬼門に当たる所に安置したが、明治二〇年頃秋葉様境内に移転した。</p> <p>ヤロカ水(伝説)の時、寺が流されたという。現在は田となっているが、昭和初期まで井戸の跡があったと伝わる。</p> <p>古井戸があり、これが昔から寺の井戸といわれていた。今日ではそれもない。</p> <p>この地内に往古大きな寺があったと伝えられ、附近から五輪塔が出たともいわれている。</p> <p>往古この辺りにキリシタンに関係した寺があったのではないかといわれるが、詳しいことは不明。</p> <p>これは昔、キリシタン宗徒を殺し、その供養のため建てたお堂があったと伝えられている。</p> <p>この地内には万願寺塚といって塚があり、ここからは「南無妙法蓮華經」の題目をしるした石がでたといわれ、もとはこの地に万願寺があったと伝わっている。</p>
豊田地内	薬師堂跡	薬師裏	
大屋敷地内	十連寺跡	白金	
大屋敷地内	大御堂跡	大御堂	
余野地内	寺跡	大福寺	
余野地内	切支丹寺跡	僧都庵	
中小口地内	地藏様跡	地藏堂	
上小口地内	万願寺跡	万願寺	

地区名	河北地内	宮東	<p>事柄</p> <p>村誌によれば大字河北二〇二番地に御堂があったが大風によって倒れその後、仮堂も作られたが堂守の不徳により取りこわし一部を楽田の永泉寺に、本尊は萩島の円応寺に預けたとされるされている。 天保一二年の村絵図には宮東に「寺」としてしるされている地がある。 下小口の墓の付近で、俗にこの地を「海度」といい、切支丹信者が住んでいたと伝わっている。</p>
古址名称	二ツ屋観音跡	北屋敷	
下小口地内	切支丹跡	宮東	
字名	北屋敷	宮東	